

## 業績一覧

平野敬和

〔博士学位論文〕

「帝国の政治思想」（2002年度、大阪大学大学院文学研究科）

〔修士学位論文〕

「吉野作造における〈変革〉の論理」（1997年度、大阪大学大学院文学研究科）

〔著書（単著）〕

- ① 『丸山眞男と橋川文三——「戦後思想」への問い』教育評論社、2014年11月

〔著書（共著）〕

- ① 『〈歴史認識〉論争』（高橋哲哉編）作品社、2002年10月  
「〈帝国史〉研究と応答責任」172～174頁担当
- ② 『KAWADE 道の手帖 丸山眞男』河出書房新社、2006年4月  
「丸山眞男と原爆体験」31～35頁担当  
「著作解題／『現代政治の思想と行動』」63～67頁担当  
「著作解題／『戦中と戦後の間』」72～75頁担当
- ③ 『日本思想史ハンドブック』（苅部直・片岡龍編）新書館、2008年3月  
「吉野作造と美濃部達吉」156～157頁担当  
「「日本浪漫派」の意味」164～165頁担当  
「戦後の「近代主義」と「民主主義」」170～173頁担当  
「大正・昭和」204～205頁担当
- ④ 『ナショナリズムの時代精神——幕末から冷戦後まで』（米原謙・長妻三佐雄編）萌書房、  
2009年11月  
第Ⅱ部第6章「橋川文三——戦後知識人の戦争体験論とナショナリズム論」262～280頁担当
- ⑤ 『一九三〇年代のアジア社会論——「東亜協同体」論を中心とする言説空間の諸相』（石井知章・小林英夫・米谷匡史編）社会評論社、2010年2月  
第2章「蠟山政道と戦時変革の思想」71～92頁担当
- ⑥ 『戦後日本思想と知識人の役割』（出原政雄編）法律文化社、2015年1月  
第1部第2章「橋川文三のナショナリズム論」36～55頁担当

〔論文〕

- ① 「和辻哲郎における「戦中と戦後の間」——その天皇論を中心に」『日本思想史研究会会報』日本思想史研究会、第14号、1996年11月、23～37頁

- ②「吉野作造の〈朝鮮論〉を読む」(三木信吾との共著)『文化交流史研究』文化交流史研究会、第1号、1997年5月、145～151頁担当
- ③「日露戦争期の吉野作造」『日本学報』大阪大学文学部日本学研究室、第18号、1999年3月、35～48頁
- ④「総力戦の思想」(子安宣邦・宇野田尚哉・盛田良治・宮川康子との共著)『日本思想史学』日本思想史学会、第32号、2000年9月、「総力戦体制下の政治思想」88～92頁担当
- ⑤「帝国改造の政治思想——世界戦争期の吉野作造」『待兼山論叢』日本学篇、大阪大学文学部、第34号、2000年12月、1～30頁
- ⑥「吉野作造のアジア——第一次世界戦争から国民革命の終結まで」『吉野作造記念館研究紀要』吉野作造記念館、第1号、2004年3月、1～11頁
- ⑦「ロマン派体験の思想史——橋川文三『日本浪漫派批判序説』を手掛かりに」『甲南女子大学研究紀要』文学・文化編、甲南女子大学、第42号、2006年3月、167～175頁
- ⑧「戦争体験と戦後思想——橋川文三を中心に」『甲南女子大学研究紀要』文学・文化編、甲南女子大学、第43号、2007年3月、61～67頁
- ⑨「戦後思想とアジア——一九五〇年代の丸山眞男を中心に」『同志社法学』同志社法学会、第321号、2007年7月、725～737頁
- ⑩「吉野作造の帝国主義批判と植民地論」『社会科学』同志社大学人文科学研究所、第42巻第1号、2012年5月、209～222頁
- ⑪「丸山眞男のアジア・再考」『現代思想』青土社、8月臨時増刊号、2014年7月、164～175頁

〔翻訳〕

- ①ディック・ステグウェルンズ「吉野作造——大正世代の孤立した指導者」(原文英語)『吉野作造記念館研究紀要』吉野作造記念館、第3号、2006年3月、9～22頁
- ②ヘルマン・オームス『徳川ビレッジ——近世村落における階級・身分・権力・法』(原文英語、宮川康子監訳)ペリかん社、2008年5月、第2章「階級政治」89～139頁担当

〔書評〕

- ①「「方法としての江戸」への問い 書評／子安宣邦『江戸思想史講義』」『江戸の思想』ペリかん社、第10号、1999年10月、170～177頁
- ②「書評／松尾尊兌著『民本主義と帝国主義』」『史林』史学研究会、第83巻第2号、2000年3月、153～159頁
- ③「書評／小林啓治著『国際秩序の形成と近代日本』」『歴史評論』歴史科学協議会、第658号、2005年2月、95～99頁

- ④「書評／竹内洋・佐藤卓己編『日本主義的教養の時代——大学批判の古層』『教育史フォーラム』教育史フォーラム・京都、第2号、2007年3月、117～121頁
- ⑤「アジアの連帯を語ること、その可能性について——米谷匡史『アジア／日本』『情況』情況出版、2007年3・4月号、2007年4月、98～101頁
- ⑥「書評／アンドリュー・E・バーシェイ著『近代日本の社会科学——丸山眞男と宇野弘蔵の射程』『日本思想史学』日本思想史学会、第39号、2007年9月、201～205頁

[学会シンポジウム発表]

- ①「総力戦の思想」、日本思想史学会大会、東京女子大学、1999年10月30日  
発表者：宇野田尚哉・平野敬和・盛田良治・宮川康子  
コーディネーター：子安宣邦  
第2発表「総力戦体制下の政治思想」担当

[その他の学術シンポジウム発表]

- ①ワークショップ「ナショナリズムの現在」、南山大学、2003年2月4日・5日  
発表者：平野敬和・米谷匡史・苅部直  
コーディネーター：櫻井進  
第1発表「帝国の政治思想——戦中・戦後の蠟山政道と丸山眞男」担当
- ②シンポジウム「歴史から見る東アジア共同体論——1930年代のアジア社会論の視点から」、早稲田大学、2009年3月10日  
発表者：平野敬和・大澤聡・盛田良治・小林英夫  
コーディネーター：米谷匡史  
第1発表「蠟山政道と戦時変革の思想」担当

[学会発表]

- ①「和辻哲郎における「脱」西欧の思想」、日本思想史学会大会、国際基督教大学、1996年10月26日
- ②「吉野作造における近代政治理論の形成」、日本史研究会近現代史部会、機関紙会館、1998年7月16日
- ③「吉野作造のアジア」、日本思想史学会大会、同志社大学、1998年10月18日
- ④「書評／松尾尊兌著『民本主義と帝国主義』」、朝鮮史研究会関西部会、大阪府立東淀川高等学校、1999年1月23日
- ⑤「「帝国主義」より「国際民主主義」へ——吉野作造の〈東アジア改造論〉」、日本経済思想史研究会大会、早稲田大学、2000年6月11日
- ⑥「帝国改造の政治思想——世界戦争期の吉野作造」、歴史学研究会・日本史研究会セミナー、湘南国際村センター、2000年7月22日

- ⑦「日本植民政策学の諸相」(宇野田尚哉・盛田良治・辛島理人との共同)  
第2発表「日本植民政策学の諸相——1920年代の矢内原忠雄を中心に」担当、社会思想史学会大会、専修大学、2002年10月25日
- ⑧「戦後思想とアジア——一九五〇年前後の丸山真男」、日本思想史学会大会、筑波大学、2003年10月19日
- ⑨「ロマン派体験の思想史——橋川文三『日本浪漫派批判序説』を手掛かりに」、日本思想史学会大会、東京大学、2005年10月30日
- ⑩「戦争体験と戦後思想——橋川文三を中心に」、日本思想史学会大会、岩手大学、2006年10月22日
- ⑪「蠟山政道と戦時変革の思想」、憲法・政治学研究会、京都労働者総合会館、2010年6月27日
- ⑫「赤澤史朗「藤田省三における知識人像と民衆観の変容」へのコメント」、同時代史学会関西研究会、同志社大学、2012年10月26日

[その他]

- ①「近現代日本思想と東アジア」『出版ニュース』出版ニュース社、2010年11月上旬号、2010年11月、36頁